

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑰

「キ職人に成長しました。お菓子作りから調理場の工事まで、店のことは何でも自分でこなす田添君。全力を出し切って遊んだ経験が「今に生かされている」と言います。

野外での保育は、こどもたちが先生から与えられた課題をこなすのではなく、環境に応じて遊びをつくり出し、楽しむところに良さがありません。田添君は「ことん遊び抜いた経験が、自分の頭で考えて判断したり、物事を楽しむ能力を養

ったりしてくれたと思います。今、創意工夫しながら店づくりを楽しんでいます。あのころの体験が少なからず影響していますよ」と話してくれます。

ちゅーりっふも、開園から四半世紀が過ぎ、卒園したこどもたちは約六百九十人を数えます。遊び保育で育ったこどもたちは、どのような大人になっているのか。長年、多くの卒園生を見てきて、「それぞれが

が、『僕は塾に行かないで大学を受験する』と、自分の意志を貫いて希望の大学に合格しました」という内容。自分の手で人生を切り開いていくこどもが多いのも、卒園生たちの特徴のようないな気がします。

自分の好きなことを見つけて、粘り強く取り組む大人に成長しているなあ」という思いを抱いています。三年ほど前、高校生にな

幼児期に誰かからの「指示待ち」ではなく、仲間と遊びをつくりだして楽しんで経験が、こどもたちの「人生を生き抜く」力をはぐくんでいるのでしょうか。遊び保育を実践していると、開園当初から「遊んでばかりで大丈夫……?」などと言われ続けましたが、卒園生を見ても心配は無用。私が、こ

どもたちを取り巻く大人に提言するとす

卒園生のその後

養われた創意 人生の糧

どもたちを取り巻く大人に提言するとす

った卒園生のお母さんからお手紙をいただきました。「友達の大半は塾に通っているのだから、あなたも塾に行ってみたら」と勧めました

れば、ただ一つ。「こどもたちを信じて、見守ってあげて」ということだけです。(ふれいすくーる・ちゅーりっふ 広島市西区 園長)

広島市中区白島北町で洋菓子工房「まわた」を営む田添正治さん(27)は、「ふれいすくーる・ちゅーりっふ」の第四期卒園生。二歳から六歳まで野外で思い切り遊んだ仲間の一人です。当時はなかなかの「きかん坊」でしたが、今では自分の「城」を持つケ



ちゅーりっふ時代は「夢中で遊んだ」と話す田添さん。パティシエの仕事や店の経営に、遊び体験を生かしている (園提供)